

地震・津波対策について

袋井市

1 地震対策の主な取り組み

(1) 建物耐震化等の推進

◆一般住宅の耐震化に対する補助（旧耐震基準）

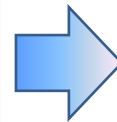
一般世帯 90万円

高齢者/障害者世帯 110万円

（住宅耐震化の推計値）

（H25.3月末）

27,500棟/30,800棟 **89.3%**



（目標）

H27耐震化率 **92%**

◆新耐震基準（S56～H12）

木造住宅の耐震診断

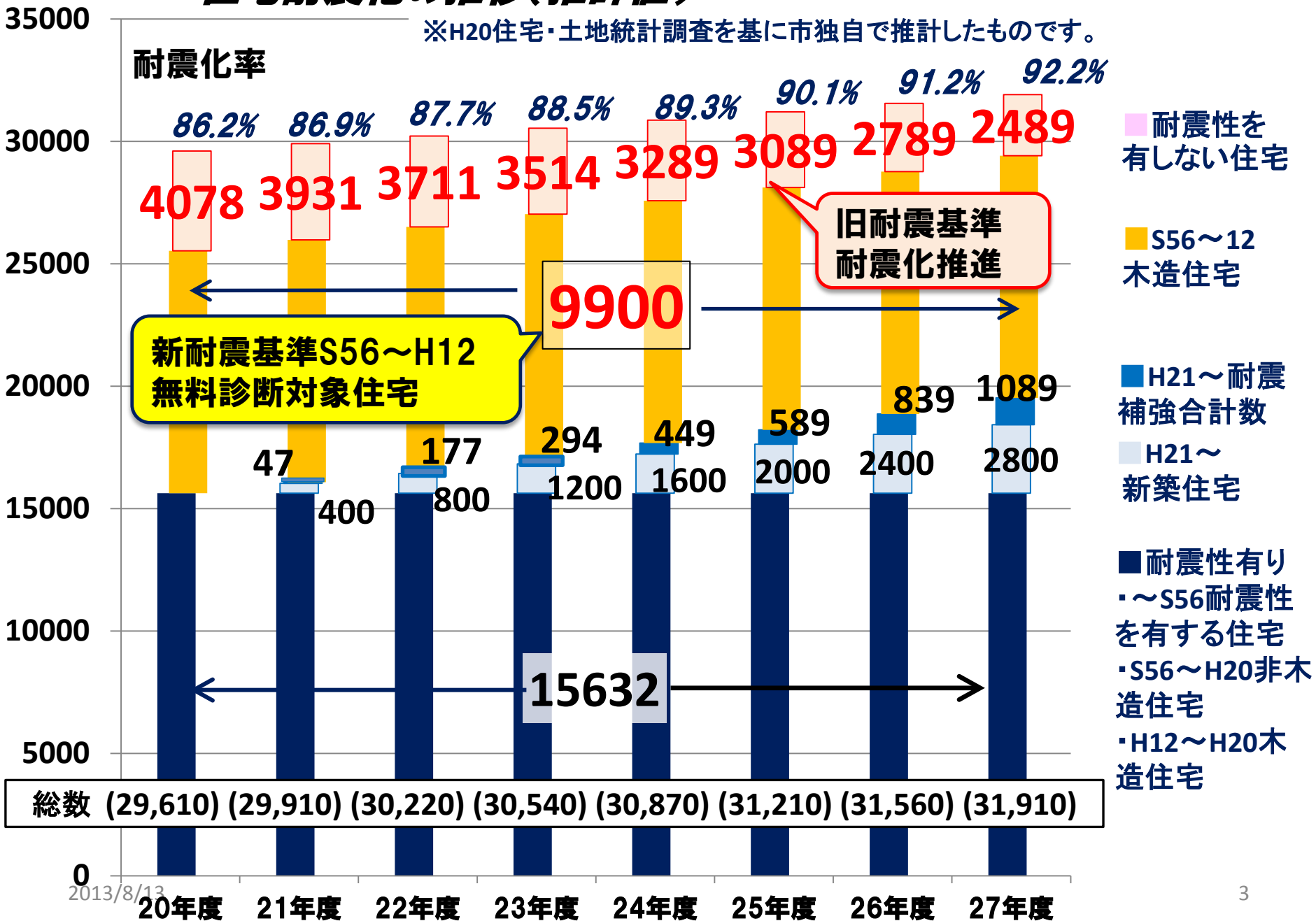
（対象棟数）**9,900棟**

わが家の専門家診断（無料診断）の対象範囲を拡大
→耐震化の推進を更に加速させる

住宅耐震化の推移(推計値)

※H20住宅・土地統計調査を基に市独自で推計したものです。

耐震化率



(2) 家庭内家具転倒防止の推進

家具等転倒防止 ～手軽で少額な経費で実施可能～

(例) 6台設置:30,000円 5/6補助 自己負担:5,000円

H15	H16	H17	H18	H19
409世帯	526世帯	455世帯	90世帯	100世帯

全世帯対象に…
①アンケート
②啓発実施

H20	H21	H22	H23	平成24年度
45世帯	113世帯	38世帯	86世帯	1,517世帯

新たな取組

- ・ 借家（戸建・アパート）等の家具固定の推進
“**県内初**” 家主への補助制度創設（H25.1～）
※借家の入居者が家具固定をしにくい環境を改善
- ・ 要援護者世帯等における対策の強化

(3) 津波対策

ア 津波被害想定の経過

平成13年 静岡県第3次地震被害想定

- ・ 最大津波高5.3m ・ 浸水域0.24km² ・ 被害なし

平成24年 内閣府「南海トラフ巨大地震津波浸水想定」

- ・ 最大津波高10m ・ 浸水域1.7km²

平成25年 静岡県第4次地震被害想定

- ・ 最大津波高10m ・ 浸水域2.5km² ・ 人的被害10人

(第4次被害想定の前提条件)

砂丘は“自然地形”

到来する最大津波高は10m → 海拔12mの砂丘防御



砂丘の構造安全性について

今後 県が調査を進め「安全度評価」を行う

イ 袋井市津波シミュレーションの実施

砂丘の構造安全性が確保されるまで市独自の対策が必要



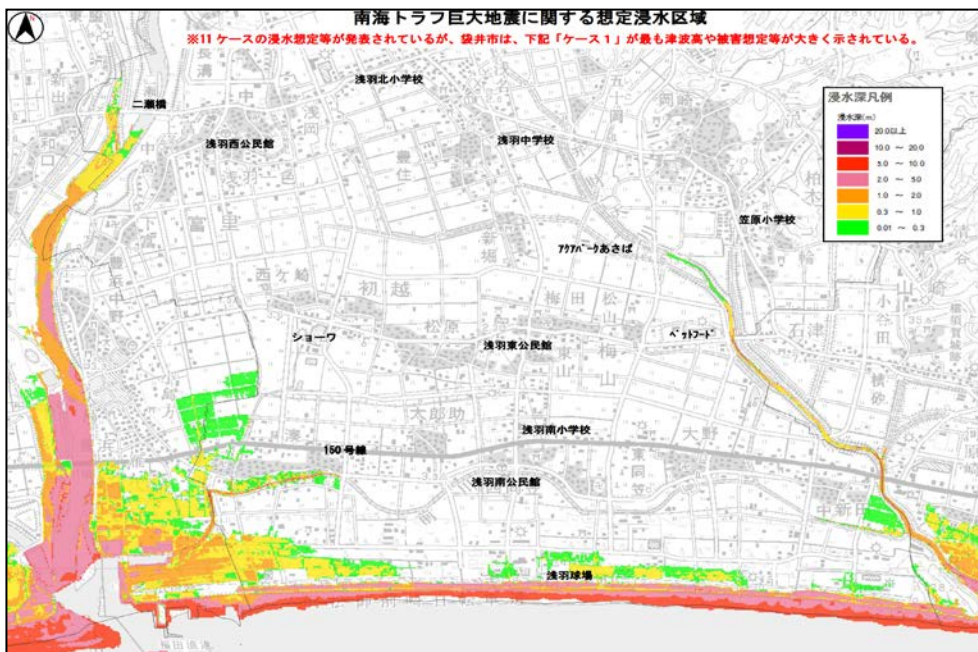
詳細な河川や地形データ等を盛り込み、**2mメッシュ**で解析
(本市独自の想定)

各地域の津波到達時間や浸水深など ~津波の挙動把握~
ハード・ソフト両面にわたる津波対策を…

	市	国	県
砂丘	地震発生と 同時に 破壊	自然地形 壊れない	自然地形 壊れない
河川 堤防	地震発生と 同時に 破壊	地震発生後3分後に 堤防が破壊 もしくは越流すると… 堤防が破壊	75%沈下 (地震前の25%高さ)

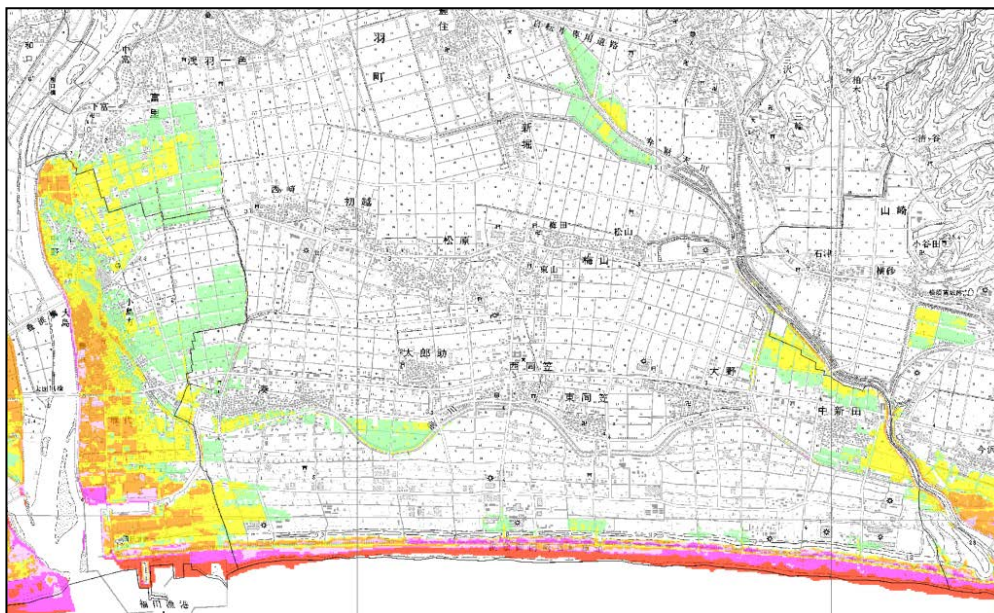
内閣府発表 (H24.8.29) 浸水面積

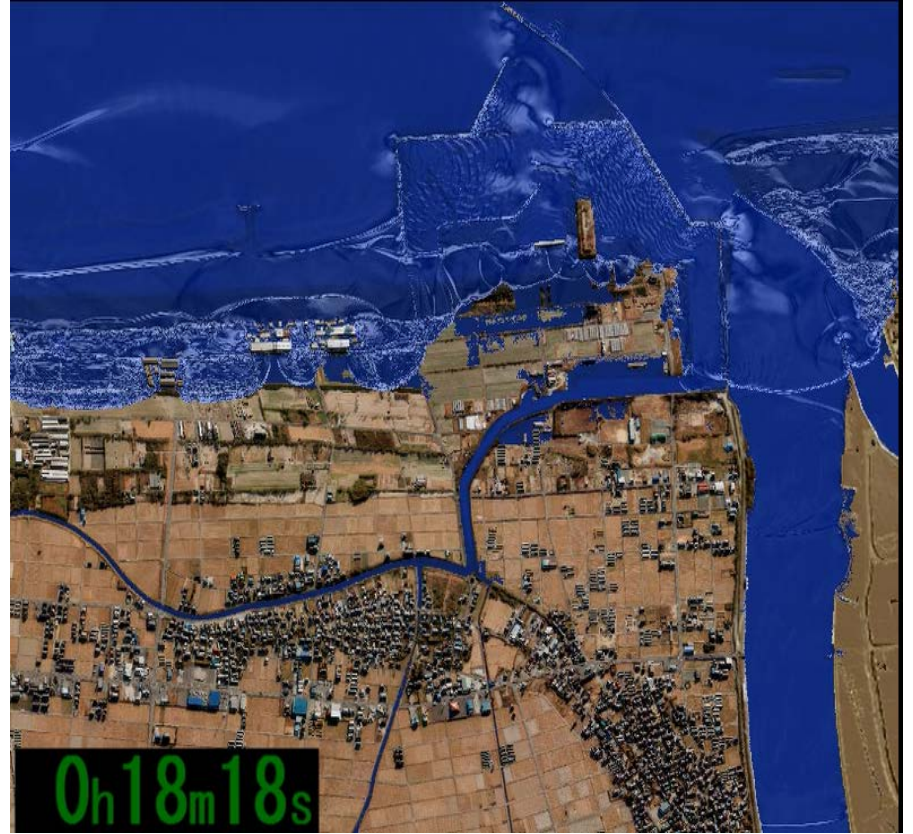
1.7km²



県第4次想定 (H25.6.27) 浸水面積

2.5km²



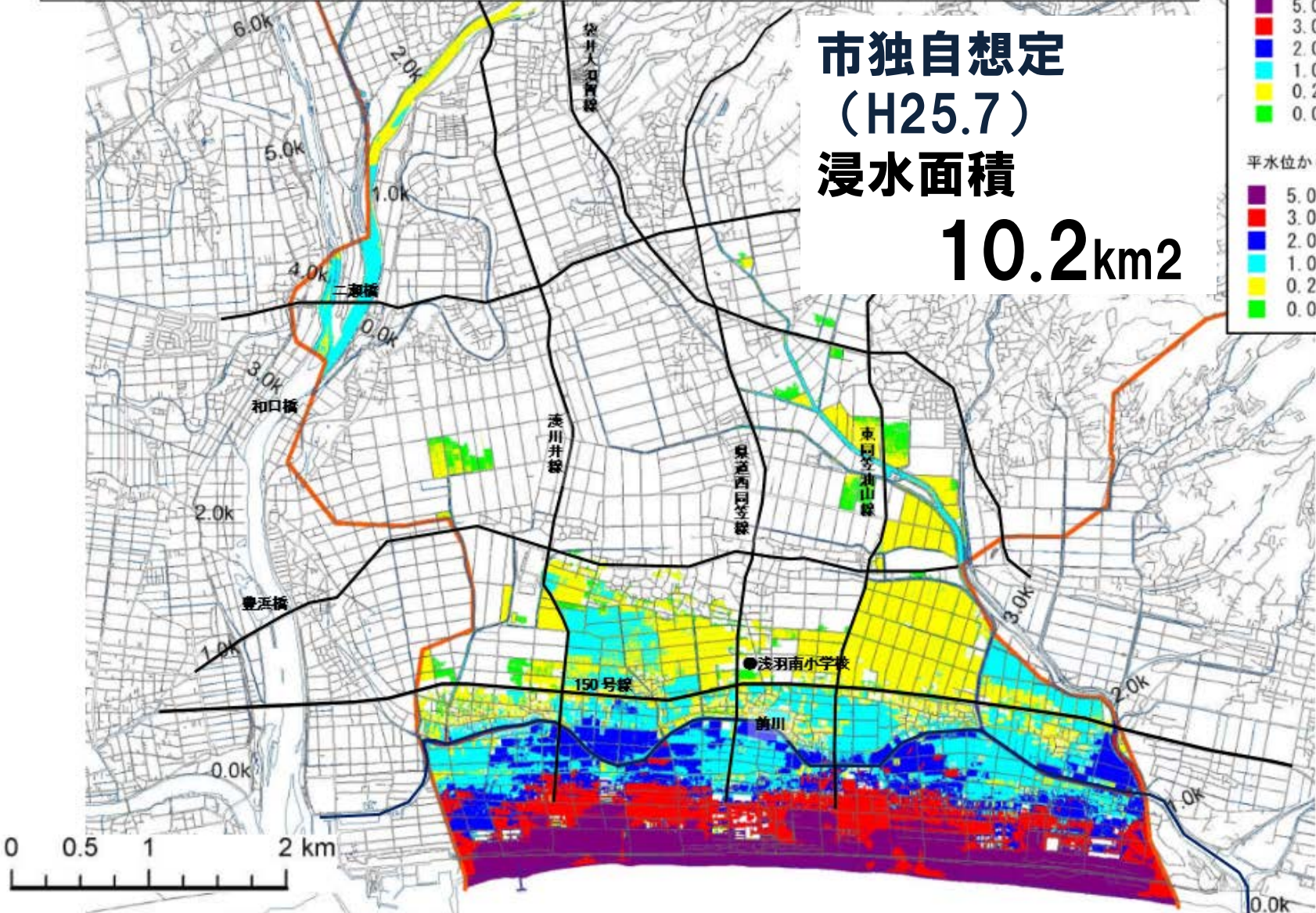
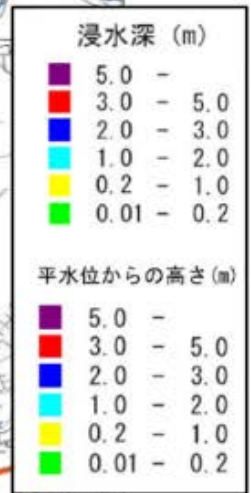


袋井市津波シミュレーション

「構造物なし（砂丘及び防潮堤が地震発生とともに破壊）のケース」

市独自想定
(H25.7)
浸水面積

10.2km²



ウ 津波避難施設の整備

(ア) 既存施設の活用

23施設 約5,000人

○公共施設の改修

2施設 約2,000人

○民間事業所の津波避難施設整備に係る補助制度創設 (H23. 9月～)

12施設 約2,500人

○共同住宅所有者との協定締結

9施設 約 500人

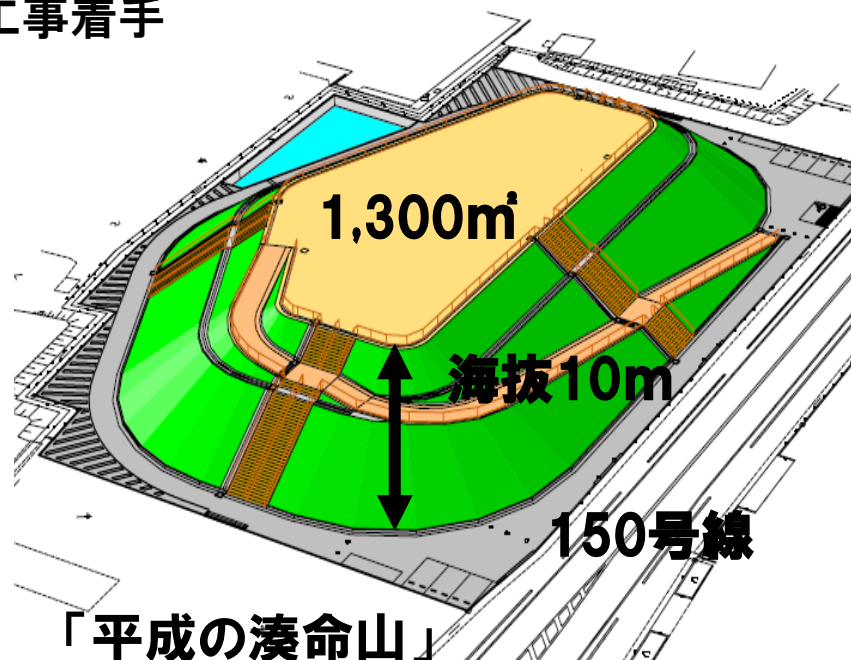


(イ) 新規施設整備

- 津波避難タワー（約160㎡）幼稚園と保育園の隣接地へ
- 「平成の命山」 H24.10月工事着手



「きらりんタワー」
工期：H24. 7月～12月
海拔：12m
避難面積：約160㎡



「平成の命山」
工期：H24. 11月～H25. 10月末
海拔：10m
避難面積：約1,300㎡

(ウ) 命山の整備予定

- 中新田地区
- 湊西地区

大野命山・中新田命山



▲大野命山全景(南から)



▲中新田命山全景(南から)

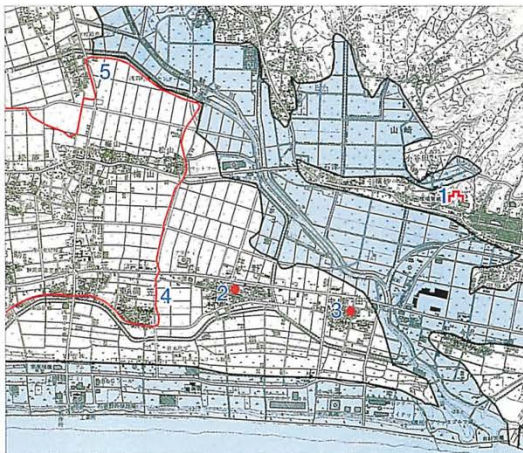
延宝8年閏8月6日の高潮災害と築山の築造

延宝8年(1680)閏8月6日に江戸時代最大と言われる台風が襲い、中国地方から東海、関東、東北の広い範囲で大きな被害が生じました。

浅羽・横須賀地域の詳細を記した『百姓伝記』によると「午前5時頃より風が吹き出し、午前10時頃には高潮が押し寄せ、多くの人馬が死亡、海はしけとなり、降る雨は海水のように塩辛く、打寄せる波は潮浸しとなり、なかでも東同笠・大野新田・中新田・今沢新田には潮が強く当り、この村では老若男女300人が死亡した」とあります。

当時の浅羽全域は横須賀藩領で、藩主は本多越前守利長えちぜんのかみとしながでした。さっそく家中総動員で崩壊した堤・塚の修復にあたります。「横須賀根元こんげん歴代明鑑れきだいのめいかん」には「普請にあたっては領主から扶持米ふちまい(賃金)もせず、農民たちは困窮を極め、追い討ちをかけるようにさらに8600俵の年貢増加を行った。払えない百姓はつかまえて女房は水田の中に矢来を組んで水中に漬け、男は寒中に水を掛けて凍えさせ、殺した村もあった」と記しています。

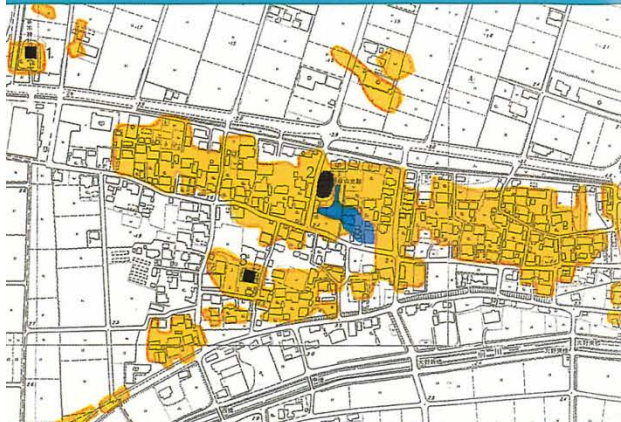
このような状況のなか、生きのびた村人たちは藩の技術指導を受けて避難所の築山(人工の小山)を築きました。そのうち高潮が発生した時は築山に避難し、命を助けてくれる山ということで、「命塚」「助け山」「命山」と呼ばれるようになりました。



S=1/50,000

1680年ごろの地形復元と命山の位置

- 1 横須賀城 2 大野命山 3 中新田命山
- 4 浅羽大団堤あさひの大だんづつ(浅羽33ヶ村を囲った堤、全長約13km)
- 5 中畦堤なかつつ(中世後期頃の堤 16世紀か?)



▲同笠新田村(大野)の地形復元 命山の東南側の窪地 ●は土取りのためか。
1. 寄木神社 2. 命山 3. 大福寺(慶長4年創建)

村と命山の関わり

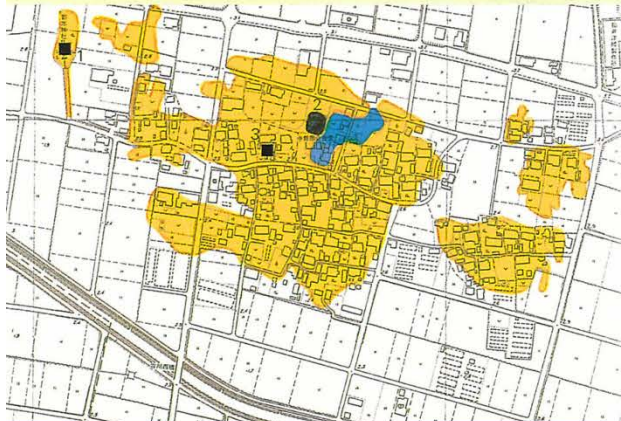
延宝の高潮災害の後に築かれた命山は村とどのように関わっていたのでしょうか。ここでは、村の鎮守と命山の位置に注目してみましょう。

大野・中新田は同笠に住む人が中心となって開いた村です。村を開くにあたり、鎮守として寄木大明神を同笠から分祀しました。このため三カ村ともに村の鎮守は寄木神社なのです。

大野は、江戸時代は同笠新田村と言い、中新田村は内海の縁に砂が堆積して砂洲となり、その中に新田を開いたことから中新田と呼ぶようになりました(『横須賀原始考』)。

両村ともに鎮守は、村からみて乾(北西)の方角で、しかも村外の微高地に位置しています。これは、地の神を祀るのと同じ場所、村の鎮守が村全体の、地の神の役割を果たしていたとみることができます。

これに対し、避難所である命山は、集落の真中に来るように場所が定められました。このようなところに、計画的な村づくりの姿を伺うことができます。



▲中新田村の地形復元 命山の東側の窪み ●は土取りのためか。
1. 寄木神社 2. 命山 3. 新造寺(元和元年創建)

種別	史跡	指定年月日	2007年3月20日
員数	1件	築造年代	1680年(延宝8年)頃
管理者	大野寄木神社総代 中新田寄木神社総代	発行	袋井市教育委員会

2 今後の取り組み

- 避難所対策
- 広域連携（災害時相互支援協定など）
- 家庭内家具等固定・ブロック塀撤去の推進
- 避難路整備（橋梁耐震化や液状化対策等）
- 津波防災地域まちづくり計画の策定
（多重防御・区域の考え方）
- 津波避難場所整備（命山整備等）
- 情報伝達手段の高度化（同報デジタル化等）